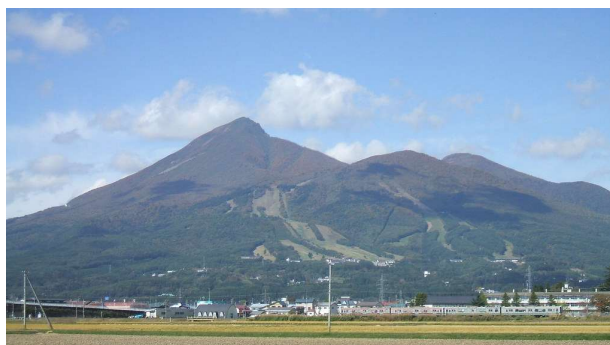


第1小主題 (教育課程)

教育活動の質の向上を目指して

～「カリキュラム・マネジメント」の推進～



【北会津支会】 会津若松市立一箕中学校 河原田 哲哉

1

1

北会津支会 教育活動の質の向上を目指して
～「カリキュラム・マネジメント」の推進～

はじめに

【北会津支会】

*全13校

会津若松市 11校（うち義務教育学校2校）

磐梯町 1校

猪苗代町 1校

*全ての学校が「コミュニティ・スクール」

*1市2町ともに、地域連携がさかん

2

2

はじめに

校長の実践研究にあたり・・・

**昨年度までの各校の実態・課題に基づく継続実践
と今年度から取り組んでいる実践との別はあるもの
の、本支会では、各校の実践を共有し協議すること
で、見出された共通の課題や有効な実践方法などを、
今後の各校長の実践に反映させながら研究を推進す
ることとする。**

- 👉 ポイント1 **支会としての研究になるように**
- 👉 ポイント2 **実践の列挙で終わらせないように**

3

3

本日の発表

I 研究の概要

II 実践事例

- 1 問題発見・解決能力育成のための探究的な学習の充実に
向けた取組
- 2 S D G s を柱にした教育活動の推進のための教育課程
の改善
- 3 地域社会と学校が共に子どもの成長を支えるための校
区教育資源の活用
- 4 P D C A サイクルを確立させるための学校運営ビジョ
ンの共有と人事評価の活用
- 5 学校運営ビジョンの進捗状況を把握し改善を図るため
の定期チェックの活用

III 成果と課題

4

4

I 研究の概要

II 実践事例

- 1 問題発見・解決能力育成のための探究的な学習の充実に向けた取組
- 2 SDGsを柱にした教育活動の推進のための教育課程の改善
- 3 地域社会と学校が共に子どもの成長を支えるための校区的教育資源の活用
- 4 PDCAサイクルを確立させるための学校運営ビジョンの共有と人事評価の活用
- 5 学校運営ビジョンの進捗状況を把握し改善を図るための定期チェックの活用

III 成果と課題

5

5

北会津支会 教育活動の質の向上を目指して
～「カリキュラム・マネジメント」の推進～

【研究の趣旨】

自校における実態や課題を把握し、

- 解決するために校長としてどのようにカリキュラム・マネジメントに関わったのか、
- それにより組織的な教育活動の改善・充実にどのように作用し、生徒・教職員・保護者・学校と地域との関係などにどのような変容があったのかを把握しながら、
- 校長の働きかけの成果と課題を累積する。

6

6

北会津支会 教育活動の質の向上を目指して
～「カリキュラム・マネジメント」の推進～

【研究の趣旨】



校長の**学校経営の視点からの成果と課題**の共有化を図り、各校の課題解決や教育活動の質の向上に資する実践研究とする。

7

7

北会津支会 教育活動の質の向上を目指して
～「カリキュラム・マネジメント」の推進～

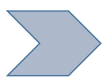
【研究の方法】

(1) 検討課題の把握

研修会で
自校の実態や課題
を踏まえた

テーマやねらい
を持ち寄り

整理・検討



◆地域学校協働活動の充実により、地域との連携はかなりの程度進んでいるものの、生徒の実態を踏まえた育成したい資質・能力を明確にした学習の展開に課題がある。

◆学校運営協議会や教職員と教育目標や目指す生徒像を共有しているが、その具現化のためには、P D C Aサイクルを確かに働かせることが不可避である。

8

8

検討課題

- 育成したい資質・能力を整理し、それらをめざした系統的・発展的な体験や学習を展開していく。
- 学校運営ビジョンを共有し、組織を活かしたPDCAサイクルを機能させていく。

9

9

【研究の方法】

(2) 各校の実践課題と視点の設定

支会の検討課題



- ◆今年度、各校で校長が取り組む実践課題（具体的な取組）を明確にし、共有する。
- ◆実践課題に応じて視点を設定する。

(3) 各校における実践推進

10

10

【研究の計画】

≪ 1 年次 ≫

- ア 学校経営上の課題の整理、検討課題の設定
⇒ 各校における実践課題（視点）の設定
- イ 各校における実践推進
⇒ 実践の共有・研究協議
- ウ 成果と課題の共有・整理

11

11

【研究の計画】

≪ 2 年次 ≫

- ア 検討課題に迫るための各校の 2 年次の実践課題（視点）の設定
- イ 各校における実践推進 ⇒ 実践の共有・研究協議
- ウ 成果と課題の共有・整理

≪ 3 年次 ≫

- ア 1 年次・2 年次の成果と課題を踏まえた各校の 3 年次の実践課題（視点）の設定
- イ 各校における実践推進 ⇒ 実践の共有・研究協議
- ウ 振り返りとまとめ

12

12

I 研究の概要

II 実践事例

- 1 問題発見・解決能力育成のための探究的な学習の充実に向けた取組
- 2 SDGsを柱にした教育活動の推進のための教育課程の改善
- 3 地域社会と学校が共に子どもの成長を支えるための校区の教育資源の活用
- 4 PDCAサイクルを確立させるための学校運営ビジョンの共有と人事評価の活用
- 5 学校運営ビジョンの進捗状況を把握し改善を図るための定期チェックの活用

III 成果と課題

13

13

北会津支会 教育活動の質の向上を目指して
～「カリキュラム・マネジメント」の推進～

【実践事例1】

問題発見・解決能力育成のための探究的な学習の充実に向けた取組

【視点2】

14

14

ア テーマやねらい

総合的な学習の時間における学習の全体計画はあるものの、実質、各学年の計画によって進められており、取組状況にも差が見られる。

学校全体として、**問題発見・解決能力の育成**
につながる探究的な学習を充実させていきたい。

15

15

イ 校長の関わり

系統的で探究的な学びの位置づけのために

- (1) **教職員の理解を促進**した上で、
- (2) **地域との連携を校長がリード**し、
- (3) **教職員の参画を推進**している。

16

16

ウ 実践の概要

(1) 教職員の理解促進

職員会議や運営委員会等の場で、教職員に説明した。

- ① 中学校における総合的な学習の時間の課題について
- ② VUCAの時代を生き抜くために必要な資質・能力について
- ③ 探究的な学習の必要性について

ウ 実践の概要

(2) 地域との連携をリード

- ① 企業との打合せを校長自らが行った。
- ② 探究的な学習で育成したい資質・能力を校長が学年ごとに作成し、企業と協議した。
- ③ 各学年6時間程度の試行プログラムを実施した。

会津富田第二中学校 探究学習 with AICT で育成する資質・能力									
学びに向かう力・人間性等		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			キャリア	
自己理解・自己表現	社会理解・社会参加	基礎的・基本的知識・技能	応用的知識・技能	専門的知識・技能	基礎的・基本的思考力、判断力、表現力等	応用的思考力、判断力、表現力等	専門的思考力、判断力、表現力等	キャリア教育・探究学習	キャリア
・探究的な学習を通して、自分の考えや他者の考えを伝えられようとする。	・他校と交流を出し合い、その意義を認識しようとする。	・探究的な学習を通して、自分の生き方を考えようとしている。	・会津のよさを理解している。	・相手の意見を聞き、共通すること、相違点（意見）を認識できる。	・自分の考えや他者の考えを伝えられようとする。	・自分の意見や他者の意見を聞き、共通すること、相違点（意見）を認識できる。	・自分の意見や他者の意見を聞き、共通すること、相違点（意見）を認識できる。	・探究的な学習を通して、自分の考えや他者の考えを伝えられようとする。	・探究的な学習を通して、自分の考えや他者の考えを伝えられようとする。
・探究的な学習を通して、自分の考えや他者の考えを伝えられようとする。	・探究的な学習を通して、自分の考えや他者の考えを伝えられようとする。	・探究的な学習を通して、自分の生き方を考えようとしている。	・多角的に会津のよさを理解している。	・自分の意見や他者の意見を聞き、共通すること、相違点（意見）を認識できる。	・自分の意見や他者の意見を聞き、共通すること、相違点（意見）を認識できる。	・自分の意見や他者の意見を聞き、共通すること、相違点（意見）を認識できる。	・自分の意見や他者の意見を聞き、共通すること、相違点（意見）を認識できる。	・探究的な学習を通して、自分の考えや他者の考えを伝えられようとする。	・探究的な学習を通して、自分の考えや他者の考えを伝えられようとする。
・探究的な学習を通して、自分の考えや他者の考えを伝えられようとする。	・探究的な学習を通して、自分の考えや他者の考えを伝えられようとする。	・探究的な学習を通して、自分の生き方を考えようとしている。	・多角的に会津のよさを理解している。	・自分の意見や他者の意見を聞き、共通すること、相違点（意見）を認識できる。	・自分の意見や他者の意見を聞き、共通すること、相違点（意見）を認識できる。	・自分の意見や他者の意見を聞き、共通すること、相違点（意見）を認識できる。	・自分の意見や他者の意見を聞き、共通すること、相違点（意見）を認識できる。	・探究的な学習を通して、自分の考えや他者の考えを伝えられようとする。	・探究的な学習を通して、自分の考えや他者の考えを伝えられようとする。

① 探究的な学習を通して、自分の考えや他者の考えを伝えられようとする。

② 探究的な学習を通して、自分の考えや他者の考えを伝えられようとする。

③ 探究的な学習を通して、自分の考えや他者の考えを伝えられようとする。

ウ 実践の概要

(3) 教職員の参画推進

- ① 次年度の年間計画の骨子を校長が作成し、各学年20時間程度の学習を進めることとする。
- ② 各学年の年間計画は、各学年と企業がオンラインで協議を進めている。

R 7 探究学習（素案）		
	1年	2年
1	OT	OT
2	○事前調査	企業人と語る会
3	○事前調査	企業人と語る会
4	事前調査	○企業人と語る会
5	事前調査	○企業人と語る会
6	事前調査	○企業人と語る会
7	FW	職場体験準備
8	FW	職場体験
9	FW	職場体験
10	FW	職場体験
11	FW	職場体験
12	FW	職場体験
13	発表準備	発表準備
14	発表準備	発表準備
15	発表	発表
16	発表	発表
17	発表	発表
18	発表	発表
19	発表	発表
20	発表	発表
1年 インプット		
2年 前半インプット		
2学期までに終了		
会津の今を学ぶ		
職業(地場産業など)から見た会津		
会津の空		
○事前調査 WSスタイル		
○WSスタイル		
●プレゼン力		
●コミュニケーション力		
●協働する力		
●課題発見力		
●課題解決力		

- I 研究の概要
- II 実践事例
 - 1 問題発見・解決能力育成のための探究的な学習の充実に向けた取組
 - 2 SDGsを柱にした教育活動の推進のための教育課程の改善
 - 3 地域社会と学校が共に子どもの成長を支えるための校区教育資源の活用
 - 4 PDCAサイクルを確立させるための学校運営ビジョンの共有と人事評価の活用
 - 5 学校運営ビジョンの進捗状況を把握し改善を図るための定期チェックの活用

III 成果と課題

北会津支会 教育活動の質の向上を目指して
～「カリキュラム・マネジメント」の推進～

【実践事例 2】

SDGs を柱にした教育活動の推進の ための教育課程の改善

【視点 2】

21

21

北会津支会 教育活動の質の向上を目指して
～「カリキュラム・マネジメント」の推進～

ア テーマやねらい

教育目標である「志をもって学び、地域に貢献する生徒」の育成のために、次のような資質・能力の育成につながる教育課程を推進したい。

○確かな学力

○基礎的・汎用的能力

○SDGs の視点に立った思考力・判断力

22

22

イ 校長の関わり

- (1) 本校における**研究推進教師**を校長が務め、
- (2) 地域の人的・物的資源の活用や協働の**コーディネーター**となり、
- (3) 各教育活動とSDGsとの関連付けを**指導助言**していく。

23

23

ウ 実践の概要

(1) **研究推進教師**として

- ① **生徒の実態把握のためのアンケートの実施と分析を行った。**

Q7 SDGsの目標を意識して、将来の自分が就きたいと思っている職業を考えたことがありますか。
73件の回答



- ② **SDGs教育についての研修会を行った。**

24

24

ウ 実践の概要

(2) コーディネーターとして

- ① 3年生の修学旅行発表会
に、1年生も参加できるようにし、一緒にSDGsについて学習する機会を設けた。
- ② 各教科、道徳、特別活動、
総合的な学習の時間における
実践を加えたいとコーディネートしている。



25

25

ウ 実践の概要

(3) 指導助言

- ① 生徒のSDGsに対する興味・関心が高まっている
と言える姿を捉えて教員に伝え、意識化を図っている。
- ② SDGsの視点でキャリア教育を推進する意義を、
教員に繰り返し指導している。
- ③ 次年度の教育課程に位置づけるよう指導していく。

26

26

I 研究の概要

II 実践事例

- 1 問題発見・解決能力育成のための探究的な学習の充実に向けた取組
- 2 SDGsを柱にした教育活動の推進のための教育課程の改善
- 3 地域社会と学校が共に子どもの成長を支えるための校区教育資源の活用
- 4 PDCAサイクルを確立させるための学校運営ビジョンの共有と人事評価の活用
- 5 学校運営ビジョンの進捗状況を把握し改善を図るための定期チェックの活用

III 成果と課題

27

27

北会津支会 教育活動の質の向上を目指して
～「カリキュラム・マネジメント」の推進～

【実践事例3】

地域社会と学校が共に子どもの成長を支えるための校区教育資源の活用

【視点3】

28

28

ア テーマやねらい

校区の教育資源（人、物、お金、情報、時間など）を効果的に活用し、地域社会との協働により、目指す生徒像の具現化と子どもの多様な成長を実現したい。

29

29

イ 校長の関わり

- （１）目標の明示と共有に重点を置き、
- （２）人事評価制度を活用して教職員の参画意識を醸成し、
- （３）地域学校協働活動コーディネーターや学校運営協議会との連携を促進した。

30

30

ウ 実践の概要

(1) 目標の明示と共有に重点

- ① 学校経営・運営ビジョンに「目指す生徒像」を明記した。
- ② 教職員への説明と生徒への講話を行った。
- ③ 機会を捉え、繰り返しの説明や講話に努めた。



31

31

ウ 実践の概要

(2) 人事評価制度を活用

- ① 教職員それぞれの立場での関わり方を、具体的な目標として設定を促した。
- ② 面談を通して「目標」「手だて」について共有し、助言を加えた。

32

32

北会津支会 教育活動の質の向上を目指して
～「カリキュラム・マネジメント」の推進～

ウ 実践の概要

(3) 地域学校協働活動コーディネーターや学校運営協議会との連携促進



コーディネーターや協議会との情報交換・連携によって

- ① 地区青少年育成協議会と連携したあいさつ運動
- ② 通学路のごみ拾い活動
- ③ 地域防犯協会行事への協力出演（合唱部）
- ④ 地域の専門家による環境問題等の授業
- ⑤ 実践についての発信（学校、校長、区長会） など

33

33

I 研究の概要

II 実践事例

- 1 問題発見・解決能力育成のための探究的な学習の充実に向けた取組
- 2 S D G s を柱にした教育活動の推進のための教育課程の改善
- 3 地域社会と学校が共に子どもの成長を支えるための校区教育資源の活用
- 4 P D C A サイクルを確立させるための学校運営ビジョンの共有と人事評価の活用
- 5 学校運営ビジョンの進捗状況を把握し改善を図るための定期チェックの活用

III 成果と課題

34

34

北会津支会 教育活動の質の向上を目指して
～「カリキュラム・マネジメント」の推進～

【実践事例 4】

P D C A サイクルを確立させるための 学校運営ビジョンの共有と 人事評価の活用 【視点 1】

35

35

北会津支会 教育活動の質の向上を目指して
～「カリキュラム・マネジメント」の推進～

ア テーマやねらい

教職員参画による学校経営・運営ビジョン作成により、ビジョンを意識した教育活動の展開を促進し、全校生徒を全職員で指導する意識を醸成したい。

36

36

北会津支会 教育活動の質の向上を目指して
～「カリキュラム・マネジメント」の推進～

イ 校長の関わり

学校経営・運営ビジョンの方向性について

- (1) 教頭や教務主任と共通理解を図り、
- (2) 運営委員会・職員会で協議し、学校運営協議会に意見を求めた。
- (3) ビジョンの「重点実践事項」・「評価指標」に基づいた自己目標の設定について指導助言した。

37

37

北会津支会 教育活動の質の向上を目指して
～「カリキュラム・マネジメント」の推進～

ウ 実践の概要

(1) 教頭や教務主任との共通理解

- ① 次の2点について意見を求めた。
 - ・「学年目標」を削除すること
 - ・「目指す教師像」
「共有すべき教職員の指導への思い」
「評価指標」を新たに加えること。

38

38

ウ 実践の概要

(2) 運営委員会・職員会議で協議

- ① 「評価指標」の必要性について説明した。
- ② 運営委員会での意見を踏まえて、職員会議で提示した。
- ③ 「評価指標」修正の意見があり、検討を経て、低い数値目標に設定し直した。
- ④ 学校運営協議会では、地域学校協働活動を重点実践事項に盛り込んでほしいとの意見があり、修正を加えた。

39

39

ウ 実践の概要

(3) 自己目標の設定について指導助言

- ① 「評価指標」を生かした自己目標の設定を促した。
- ② 面談をとおして、自己目標について指導助言を行った。
- ③ ビジョンを意識した教員の実践を認め価値づけし、日常的な指導助言に努めている。
- ④ 職員会議で進捗について確認している。

40

40

I 研究の概要

II 実践事例

- 1 問題発見・解決能力育成のための探究的な学習の充実に
向けた取組
- 2 S D G s を柱にした教育活動の推進のための教育課程
の改善
- 3 地域社会と学校が共に子どもの成長を支えるための校
区教育資源の活用
- 4 P D C A サイクルを確立させるための学校運営ビジョ
ンの共有と人事評価の活用
- 5 学校運営ビジョンの進捗状況を把握し改善を図るため
の定期チェックの活用

III 成果と課題

41

41

北会津支会 教育活動の質の向上を目指して
～「カリキュラム・マネジメント」の推進～

【実践事例 5】

学校運営ビジョンの進捗状況を把握し
改善を図るための定期チェックの活用

【視点 1】

42

42

ア テーマやねらい

ビジョンを実現し「子どもたちの満足度」を高めることが校長の使命である。「子どもたちの満足度」を教職員と共有し、都度の改善を図っていききたい。

43

43

イ 校長の関わり

- (1) 学校経営・運営ビジョンに「子どもたちの満足度」を位置づけ、
- (2) 子どもたちへの定期アンケートを実施し、
- (3) その結果に基づいた改善を指導助言している。

44

44

ウ 実践の概要

(1) 「子どもたちの満足度」の位置づけ

① 「子どもたちの満足度」を4項目で捉える。

- ・ 学校が楽しい
- ・ みんなで何かをするのは楽しい
- ・ 授業に主体的に取り組んでいる
- ・ 授業がよくわかる



45

45

ウ 実践の概要

(1) 「子どもたちの満足度」の位置づけ

② 学力向上を支える基本的な生活習慣・学習訓練の5項目も設定した。

- ・ あいさつ・返事をする（ていねいな言葉遣い）
- ・ 相手の話を聴く
- ・ 時間を守る
- ・ 身じたく・履き物を整える
- ・ 清掃に真剣に取り組む

46

46

ウ 実践の概要

(2) 定期アンケート

- ① 校長が自らGoogleフォームアンケートを作成し、全校生対象に調査している。
- ② アンケートは前述9項目のみ。
- ③ おおよそ2カ月に1度のサイクルで調査。

(3) 結果に基づいた改善

- ① アンケート結果を教職員と共有して、各分掌で改善に取り組む。
- ② 改善の方法や方向性について、校長が指導助言している。

47

47

I 研究の概要

II 実践事例

- 1 問題発見・解決能力育成のための探究的な学習の充実に向けた取組
- 2 SDGsを柱にした教育活動の推進のための教育課程の改善
- 3 地域社会と学校が共に子どもの成長を支えるための校区教育資源の活用
- 4 PDCAサイクルを確立させるための学校運営ビジョンの共有と人事評価の活用
- 5 学校運営ビジョンの進捗状況を把握し改善を図るための定期チェックの活用

III 成果と課題

48

48

1 年次の成果と課題

ア 検討課題の設定に関して

- 各校の実践の列挙にとどまらず、実態や課題意識を共有し検討したことで、カリキュラム・マネジメントのあり方を考え、校長として取り組むべき実践課題を明らかにすることができた。
- 育成したい資質・能力については、時代背景や各校の実態等に応じて校長としてより明確に捉え、そのうえで実践を創造することが必要である。

49

49

1 年次の成果と課題

イ 各校における実践に関して

- 校長自身が**教育実践の当事者**としてオーナーシップを発揮していた。
- 実践を共有したことにより自校の実践を参考にしながら推進することができ、**校長が協働で研究する意義**を再確認できた。

50

50

1 年次の成果と課題

ウ 2 年次へ向けて

- 2 年次の実践課題（視点）の整理を 1 年次のうちにある程度進めることで、場当たりの 2 年次の実践とならないように配慮したい。

51

51

おわりに

*** 本日の発表では、各実践事例の「考察」までは述べていない。**

⇒ 今後、1 年次の実践の考察を行う。

*** これからの 3 年計画において、支会における検討課題を確認し合いながら実践研究を進め、研究主題に迫っていききたい。**

52

52